

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100683		
法人名	社会医療法人 明和会 医療福祉センター		
事業所名	グループホーム オータムハウス		
所在地	鳥取県鳥取市覚寺51番地5		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果市町村受理日	令和4年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	令和3年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ2年は、コロナ感染予防の為、外出自粛、ボランティアや園児との交流会等外部との交流はほとんどなかった。そんな中でも、近くの散歩やドライブ、ふれあい広場を貸し切ったの外出等工夫しています。また、地域の行事に、日々の活動で制作した作品を展示、季刊誌を配布したりしています。ハウス内では、「ゆっくり一緒に楽しんで」をモットーに、入居者一人一人の思いに寄り添い一人一人のペースを大切にしながら声掛けを行っています。また、個々の残存機能を発揮でき、役割をもって一緒に取り組めるようにかかわっています。3グループホームのクラブ活動の交流は、形を変え継続しています。コロナが終息し、日常生活が戻ることを願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍により外部との交流が現在は中止されている。このような中、近隣の散歩や、海、山へのドライブ、花見、部屋を貸し切ったの外出支援などの工夫がされていた。また、年2回の家族会の代わりにオータム新聞を作成し、家族のみに配布し喜ばれている。次回も発行予定のことです。さらに個々を大切にされ、残存機能を発揮することの出来る役割を付与し、生活支援が行われていた。同法人の2施設のグループホームと合同で、クラブ活動として書道、芸術、音楽などの各種の分野を設置し3施設で交流されていたが、コロナ禍により、利用者同士の交流は出来なくなった。しかしながら、各グループホームごとの範囲の中でクラブ活動に参加し、利用出来るように配慮されている。このようにオータムハウスの理念にある「ゆっくり、一緒に、楽しんで」をモットーに、様々な工夫をされ、自己研鑽に努めながら取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない (コロナ可の為)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義や役割を踏まえた理念をミーティング等で確認し、具体的なケアについて意識の統一をは図っている	グループホーム運営理念、生活理念の他にオータムハウス独自の理念を各年度ごとに作成されている。理念について全職員が振り返り、確認しながらサービスに繋がられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ感染予防のため、直接的な交流は出来ていないが、公民館祭等に作品を出展したり、介護エピソード募集に投稿したり、季刊紙を配布したりしている。野菜や、果物、お米の差し入れもある	コロナ禍で活動の制限はあるが、地区公民館祭りの利用者作品の出展や、年4回発行する季刊誌「四季」を地域に配布し、つながりを持たれている。また、地域の方からの差し入れもあり交流を続けられている。介護エピソード募集へ投稿され、利用者が受賞されるなど、意欲を持って取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染の状況を見ながら実習生の受け入れ、研修医の見学、季刊誌「四季」の配布や、書面開催での運営推進会議で取り組みを発信して認知症の理解や支援の方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、書面開催になっているが事業所の取り組みや入退居を含めた利用者の状況、事故報告を行い意見交換しサービスの向上に繋げている。意見を頂き、オンライン面会に繋げる事が出来た	2ヶ月に1回 書面での開催となっている。活動報告・活動予定・利用者状況・事故報告等がなされ、意見や提案をもらわれている。メンバーには利用者家族全員が含れ、沢山の意見をもらい運営に活かされている。また、コロナ感染予防で面会が難しい事をうけ、会議での意見により LINEでのオンライン面会を実施された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で事業報告を行い意見交換したり、季刊誌「四季」を配布したり、事故報告も行っている。市からの色々なメールでの情報を得、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議の他に季刊誌を配布し、事故報告等されている。食中毒、熱中症の注意報や研修会案内等の連絡をもらわれ、日頃から協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的にオータム内で勉強会を行い共通認識を図っている。毎月の会議で身体拘束委員の報告やオータムの現状の話し合い身体拘束を行わないケアに取り組んでいる	同法人の「高齢者虐待防止委員会」に参加し、毎月の会議で報告が行われ、職員全体で共有認識されている。虐待の芽チェックリストにて定期的にチェックした内容を確認されている。センサーマットの使用、スピーチロックなどの行為が虐待にあたるか職員全体で話し合い、拘束を行わないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で日常的に気付いた事を言い合える関係作りに心掛け、チェックリストを活用し定期的に話し合っており、職員同志連携を図りながら防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護に関する制度を利用している利用者はいない。制度への理解を深めるよう勉強会等を開催し、必要があれば活用できるように取り組むようにしている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに関しての考え方や取り組み、解約を含めた事業所の対応について説明を行っている。解約時も、関係者と話し合い納得を得られるようにしている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、利用者が意見・要望を常日頃より伝えられるように面会時やお便り、電話連絡等を行い連携に努めている。意見や要望は出来る限り運営に反映できるよう職員間で話し合い実践するよう努力している	年間行事の敬老会・クリスマス会の行事に合わせて、年2回家族会が行われていた。今年度はコロナ禍で中止となったが、利用者の各行事での様子やお知らせを載せた「オータム新聞」の発行、オンライン面会を実施され、家族からの意見や要望をもらわれ繋がりを持たれている。また、毎月のお便りにて利用者の日常の様子を報告される他、グループホーム季刊誌「四季」を年4回配布し、情報発信されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長も積極的に職員とコミュニケーションを図っている。管理者は日常的にスタッフと意見の交換を行っている。チーム会やスタッフ会議で話し合ったり、連絡ノートを活用して意見、提案を出し反映させている	施設長・管理者は日常的に職員とコミュニケーションをとられている。 職員は年度はじめ目標設定を行い、その半年後自己評価をし、管理者との面談にて意見・要望を話す機会が設けられている。スタッフを2チームにグループ分けし少人数で意見が出しやすいように配慮され全員の意見を吸い上げるよう努められている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ストレスチェックを年1回実施。 業務に関して話し合いの場を設けたり、研修参加の機会、個人意欲評価表などを利用し職場環境改善に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるように勤務を組み出来る限り参加するようにしている。又スタッフ会議で研修内容を報告して職員全員が共有できるようにしている。Eラーニングも毎月議題を決め視聴している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナで管理者ネットワークの会は開催自粛しているが、電話等で相談している。運営推進会議に知見者として参加し意見交換を行って取り組みを学んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実調に行き、本人に会い心身の状態や思いを聞いている。家族等本人と関わりのある人から、生活歴や病歴、趣味等を把握するように努め、本人の不安や思いを理解するよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学に来て頂き、利用者の状況、家族の要望、不安な事や困っている事等を聞き、事業所としてどのような対応ができるか話し合い信頼関係が築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で家族、本人の状況や要望を聞き、「その時」の本人や家族が必要としているケアを提供できるようにこころがけ、ケアプランの作成に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、「ゆっくり、一緒に、楽しんで」をモットーにお互いに支えあい協力し合いながら生活する場面作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや電話、受診や来訪時に利用者の様子や思いを伝えるようにしている。家族の意向を聞き家族との絆を大切に同じ方向で支援するよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為外出は自粛しているが、ドライブで馴染みの場所を通る支援や、状況に合わせた面会、手紙や絵手紙、年賀状など出し、関係が途切れないように支援している	コロナ禍で、以前のように食事の買い出しや馴染みの人との外出支援は難しいが、自宅前や市内へのドライブ、オンライン面会を実施されている。また絵手紙や年賀状にて関係が途切れない様支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、心地よく生活できるよう、席の配慮やその時の利用者の状況に合わせた活動が出来るように配慮している。個別に話を聞いたり、皆で楽しく過ごす場面作りに心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した時点では、介護連絡票で今までの生活状況を伝えている。また、ご家族からの相談にはいつでも対応している。退去後も手紙のやりとりや面会等関係性を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから、本人の思いや希望を把握するよう心掛けている。思いを表現できない利用者に対し、日頃の言動、表情から希望、意向をくみ取り、職員間で話し合い本人の思いに添えるよう努めている	利用者との雑談や新聞記事などから色々な話題を見つけ、会話の中から思いや希望を把握するよう心掛けられている。思いの把握が難しい場合は、日々の活動の中での表情や言動で汲み取るよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で会話の中から情報を得るよう心掛けている。また、本人や家族その他関わりのある方から、生活歴や生活環境等情報を得てサービスに繋がられるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアチェック表や連絡ノートに活動内容や心身の変化を細かく記入し情報共有し利用者の現状把握に努めている。職員間でも日々話し合い現状を把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録や本人や家族の意向を基に、モニタリング、アセスメントを行い、サービス担当者会議で本人、家族等を含め話し合いケアプランを作成する。スタッフ会議で確認し、ケアの統一を図っている	個々の担当者は日々の様子やケアの実施、気づきや工夫を記録し、家族、介護計画作成者と話し合い、サービス担当者会議にてケアの方向性を決め、ケアプランを作成されている。介護計画はスタッフ会議で確認し、全員で共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を通して職員の気づいた事や、本人、家族の意向を記録に残し、それを踏まえ、現在の状態や方向性を職員間で共有し、出来る事を話し合い個々に即した介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外に個々のニーズに合わせて出来るだけ対応している。受診もご家族の都合の悪い時や緊急の場合は職員が対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで外出は自粛しているが、公民館や美術館への作品展示、図書館の本やCD利用、地域の方から座布団や新米の差し入れがある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は指定しているが、実際にどこを受診するかは本人、家族の希望を優先。家族が付き添えない時は職員が付き添っている。定期受診時には近況報告書を作成し近況を伝え適切な医療に繋げている	受診は、基本的には利用者が希望するかかりつけ医で、家族が付き添われている。また、家族が付き添えない時や緊急時には、職員が対応し付き添われている。定期受診時には近況報告書を作成し、利用者の状態を伝えながら適切な医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の本人の状況の変化や気付きを相談できるように法人内外の看護師に情報提供し適切な受診や看護が受けられるよう努めている。不在日や夜間は法人内の看護師と連携を取り相談できる体制がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護連絡票を作成し、本人の生活状況、身体的、精神的な面での情報提供している。入院中は、家族からの情報や病院担当者との電話連絡などで情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の事業所の方針を説明している。重度化した場合は本人、家族、主治医、ケースワーカー等と相談し方針を決定している。また本人の心身の状況や生活の様子を毎月のお便りや、電話や面会時に伝えるようにしている	重篤化した場合や終末期のあり方について、入居時に看取りはしない方針であることを説明されている。早い段階から利用者、家族、主治医、ケースワーカー等と相談し、方針を決定されている。毎月のお便りで心身の状態や生活の様子を伝え、チームで支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故発生時のマニュアルを見直している。勉強会を行い日々の変化に皆が気づき対応できるように話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に利用者を交えた、火災、災害避難訓練を行い、避難経路や非常時の応援体制の確認、通報装置や消火器の使い方等の訓練の実施。マニュアルの見直し、備蓄品の確認も行っている	年2回の火災・災害避難訓練が行われ、避難経路や非常時の応援体制の確認、また通報装置、消火器の使い方等の訓練が実施された。火災・水害のマニュアルや通報の見直しをされている。そして、初年度の家族へのお便りの中では避難場所の周知がされていた。尚、各部屋の扉口には避難確認方法が分かるようにラベルが設置されるなどの工夫がなされていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の接し方を職員間で話す機会を持ち、利用者個々の尊厳とプライバシーを大切に、声掛けや言葉使いなどに配慮したり、羞恥心に配慮したトイレ誘導、入浴介助等行っている	利用者一人ひとりの人格を尊重され、誇りやプライバシーを損ねないよう接し方について話し合われたり、言葉遣いにも気をつけている。また、トイレ誘導、入浴介助等についても声掛けや言葉遣いなどに配慮し、トイレ内、風呂の脱衣所にカーテンをつけられるなどプライバシー確保の工夫をされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、本人の思いや希望等言い易い雰囲気、環境になるよう努めている。自己決定が難しい利用者には、2択で質問したり、分かり易い対応に努めている。スタッフの思いを押し付けないよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れがあるがその日の体調や気分に応じて活動に声掛けしている。希望、要望を話される利用者に対して柔軟に対応しようとしているがスタッフの人数等で、その日には出来ない時もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ感染状況に応じて、福祉理美容来所でカットを行っている。毎朝の整容も声掛け見守り、必要に応じて介助している。季節に応じて衣替えや衣服の調整が出来るよう、本人と相談しながら行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、利用者、職員と一緒に作り、盛り付け、片付けも行っている。自分たちが作った野菜も料理に使っている。誕生日には好みのメニューを聞き、皆でお祝いしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら利用者と職員と一緒に調理をし、盛り付けや片付け等を行われている。また、自家菜園の畑で四季を通して採れた旬の野菜を使って料理するなど、利用者は楽しまれている。利用者の誕生日には好みのメニューを聞き、みんなでおいしくお祝いされている。現在はコロナ禍のため職員は少し離れたところから見守りしながら食事をし、利用者の介助をされていた。食事はカロリー計算をして提供される他、利用者がボードに当日のメニューを書かれていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士がチェックしている。ミーラウンドも定期的に行っている。個々に水分量、食事量をチェックし、特に、水分量が少ない時に果物やお茶ゼリーなど好みの物で確保できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに応じた口腔ケアを声掛け見守り、それぞれの口腔内の状態を把握している。義歯洗浄、歯ブラシ、コップの消毒も定期的に行い清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排尿パターンを知り、それに基づいてさりげなく声掛け誘導している。個々の状態に合わせパット、リハパンを使用している。オムツから布パンツになった利用者がある	一人ひとりの力や排泄パターンを把握されていた。おむつから布パンツへ改善された利用者があるなど、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況をチェックし、本人に合った下剤の調整を行っている。ヨーグルトの提供、食物繊維を含む献立の工夫、水分摂取や運動に誘うよう心掛け、腹部マッサージも行い便秘への対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は大体決まっているが、職員が多い時には、ゆったりと入れるようにしている。拒否のある利用者には無理強いせず、気持ちに向いたときに入れるよう職員間で情報共有している	入浴は最低でも3日に一度は入ってもらえるように努められている。毎日でも入浴されたい利用者については入浴可能で、拒否のある利用者には無理強いせず、時間帯を変えたりタイミングに合わせて入浴が楽しめるよう個々に添った支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムに合った休息が取れるよう心掛けている。日中の活動を促し生活リズムを整え、就寝前には温かい飲み物を飲んでゆっくり過ごし、穏やかな気持ちで入床出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報をファイルし、処方変更時は説明書を回覧し情報共有。変化があれば記録に残し、主治医へ報告している。薬に関する事故の無いよう話し合い、管理方法などのマニュアルを見直している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な事、楽しい事を把握し、家事活動、趣味、季節の行事等本人の力が発揮できる環境作りを心掛け、一緒に取り組み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。合同クラブ活動も方法を変え継続中		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで外出は自粛しているが、施設周辺の散歩や、ドライブ、ふれあい広場など施設を貸し切り、レクを楽しむよう工夫し支援している	施設周辺の散歩、和紙工房での制作体験や紅葉狩り、国府町の殿ダム散策などコロナ禍ではあるが可能な範囲で各種の戸内外の行事を実施され、利用者の希望に沿った支援に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお金の管理は事務所でやっているが、本人の希望の物をいつでも買うことが出来るようになってきている。利用者によっては家族の了解の下自分で持っている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でもかけられるよう、公衆電話を設置している。リモート面会ができ遠方とのやりとりも行っている。活動で、絵手紙を書き送ったり、自ら手紙を書く利用者もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心した空間になるように、ソファの配置や読書環境作りをしている。行事の写真の張り替えや、毎月壁絵等の作成も一緒にを行っている。匂い、温度、湿度、テレビの音量等にも配慮している	季節を肌で感じられ、そして居心地良く過ごせるよう、ソファの設置、読書環境作り、また毎月の壁絵等の作成を利用者と共に行うなどの工夫がされていた。併せて匂い、温度、湿度にも気を配られていた。また施設内にはメッセージボードが設置されており、その中に職員が今日ある出来事、お知らせなどを記入されている。利用者は日々の生活の中でその情報を得ることを楽しみにされているようであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長い共用廊下やリビングやダイニングに椅子がある。ソファや畳コーナーもあり、テレビを見たり、新聞や本を読んだり会話をしたり思い思いに過ごせるように取り組んでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きな絵や写真、クラブで自らが制作した物を飾っている。季節に応じた掛け布団や衣替えを行い、家族と相談しながら心地よく居室で過ごせるよう配慮している。ラジカセ、テレビ等置く利用者もいる	居室にはベット、ダンス、洋服ダンス、ワゴンが備え付けられている。利用者の好きな絵や写真、ラジカセ、テレビ等が置かれ、ゆったりとした環境の中で居心地良く過ごせるような工夫がされていた。居室の表札は利用者によりわかりやすく表示されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札は個々に応じて分かりやすく表示している。トイレも横から見ても分かり易く立体になっている。共用廊下には椅子を設置して休憩できるような安全な環境に努めている		